

「事業名：『環境エネルギーまちづくり』を通じた地域社会イノベーション」 平成30年度補助事業の実績・成果

東京大学 連携市町村：新地町

連携市町村との協定締結日：平成30年6月3日 現地拠点：相馬郡新地町新地町役場(3階301室)

事業のポイント

「環境エネルギーまちづくり」のモデル形成を、福島県新地町を対象地域として実施する。即ち、地域エネルギーモニタリングに関するビッグデータ解析とシナリオ検討を通じた地域エネルギーシステムの将来ビジョン構築、地域住民との積極的なコミュニケーションを通じた社会動態分析とニーズ把握に基づく定住環境検討、それらを統合した共創型地域マネジメント・まちづくりを、公・民・学連携の地域拠点「アーバンデザインセンター新地」をプラットフォームとして着実に実践していく。さらに、そのプロセスに大学院学生を積極的に参加させ、加えてフィールド演習を実施することにより、現場経験を基盤とする実践的な学習と研究、および地域の将来を担う人材育成の役割を果たすことをも目指す。

今年度の活動実績

- ◆ 現地拠点「新地アーバンデザインセンター」の設置
- ◆ 新地町・国立環境研究所・東京大学大学院新領域創成科学研究科の三者協定に基づく、新地町内75世帯のエネルギー・モニタリングデータの共有とその分析
- ◆ 大学院フィールド演習の実施：11月と12月の計2回 参加大学院生24名（うち、留学生13名）

今年度の成果

- ◆ 「新地アーバンデザインセンター」の教育研究拠点としての機能、ならびに、新地町との関係性の構築。公・民・学連携拠点としての機能構築と、まちづくり組織の立ち上げ
- ◆ 新地町のエネルギー需要および供給についての現状整理、ならびに、エネルギービジョン構築のために必要な作業項目の設定
- ◆ 「新地町民によるスマートコミュニティについての認識」の把握、ならびに、「町民のニーズを反映させたスマートコミュニティの持続的な発展可能性」に関する提言の作成

I. 現場の活動拠点「アーバンデザインセンター新地」の設置・運営と駅周辺整備の支援・効果の評価

(1) 新地アーバンデザインセンターの立ち上げ

拠点の設置	組織立ち上げ準備
<ul style="list-style-type: none"> ・役場内会議室(仮拠点) ・駅前新施設内へ本施設協議 	<ul style="list-style-type: none"> ・関係者間での目的等共有 ・検討会(準備)立ち上げ



(2) 大学と地域の連携促進
現地コーディネーターを派遣

演習プログラムの支援	町事業へ学生参加コーディネート	町民等への活動の周知
<ul style="list-style-type: none"> ・現地情報の集約提供 ・住民との交流の場を設定 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちあるきワークショップ参加 ・学生と住民との交流の機会 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりニュースへ掲載 ・地域団体協議



大学院の現地でのプロジェクト演習等の実施支援

II. エネルギーモニタリングデータ分析に基づくエネルギービジョン構築とまちづくりの担い手育成

【目的 (H30年度)】

自然環境と人口環境に基づいたエネルギーシステムの将来ビジョン提示にむけた需要・供給両面からの検討

【参加】大学院生 16名

【実施内容】

- ・エネルギー・モニタリングデータ分析(町内75世帯、国立環境研究所よりデータ提供)
- ・現地でのフィールド調査(2回)
現地踏査、町民意見聴取
- ・再生可能エネルギー施設見学
- ・エネルギー需要・供給についての継続的分析



エネルギー需給の現状整理
エネルギービジョン構築のための作業項目の設定

III. 「サステナビリティ学」に関する大学院プロジェクト演習を通じた社会動態分析とニーズ把握に基づく定住環境の形成

【目的 (H30年度)】

新地町が持続可能性を伴って発展し続けるための課題(機会)を洗い出す

- ① 新地町民によるスマートコミュニティについての認識
- ② 町民ニーズを反映させたスマートコミュニティ事業の発展可能性

【参加】大学院生 9名(うち留学生 7名)

【実施内容】

- ・現地でのフィールド調査(2回)
現地踏査、アンケート調査、マッピング調査、インタビュー調査、地域イベントへの参加
- ・調査結果や人口等データの解析



提案の作成
地域コミュニティ、観光・地元産業振興、交通・移動

町への成果報告